

山口県交響楽団 60年のあゆみ

【昭和30年（1955年）～昭和39年（1964年）】

戦後10年を経た昭和30年2月、映画「ここに泉あり」が公開されました。地方都市初のプロオーケストラである群馬交響楽団をモデルに、オーケストラ活動の普及と発展に尽くした人々を描いた作品です。山口県でも本格的な県民オーケストラを立ち上げようという機運が高まり、同年、山口県社会教育課長 岡田隆氏の呼びかけにより、NHK防府放送局管弦楽団（UGアンサンブル）と山口クレモナオーケストラを母体として、2管編成・団員50名の「山口交響楽団」が創設されました。

昭和30年5月の発会式は、山口市の防長青年館で、小澤太郎山口県知事、松山基範山口大学学長など、多数の来賓の臨席のもとに行われました。

山響結成記念第1回発表会（昭和31年3月 山口市防長青年館 他）

曲目：ヴァイオリン協奏曲（メンデルスゾーン）、未成交響曲（シューベルト）他

指揮：石井洋之助、重富幾夫 ヴァイオリン：石井志都子



こうして発足した山響は、石井洋之助氏、重富幾夫氏など、戦後の本県の音楽教育・音楽文化振興をリードされた指導者のもとで精力的に練習を重ね、山口県で開催した第1回公演を皮切りに、防府市、宇部市、萩市、徳山市、岩国市、光市、長門市、柳井市、小郡町など、山口県全域で演奏会を展開していきました。

昭和36年8月には、県内に広くオーケストラの音楽を提供していく楽団であることを明確にするため、名称を「山口交響楽団」から「山口県交響楽団」に改称しました。

【昭和40年（1965年）～昭和49年（1974年）】

昭和38年の山口国体は、毛利元就の「百万一心」の言葉にふさわしく、県民の総力を結集した、戦後の復興と成長を象徴する大会となりました。この成果を引き継ぎ、県民の芸術文化の向上を図るため、昭和39年に「山口県芸術祭」が発足しました。山響は、翌年の昭和40年11月から参加しています。

この山口県芸術祭は、平成9年に「やまぐち県民文化祭」へ、平成19年に「山口県総合芸術文化祭」へと引き継がれ、山響の定期演奏会も、これら文化祭の分野別フェスティバルの一つとして開催されています。

第10回山口県芸術祭開幕式典「交響楽と合唱の夕べ」（昭和48年9月 山口市民会館）

曲目：マイスタージンガー前奏曲（ワグナー）、ヴァイオリン協奏曲第5番（モーツァルト）他

指揮：重広昭雄、山崎凱千 ヴァイオリン：三木妙子

昭和48年6月、山口県教育委員会事業による「へき地巡回音楽教室」が発足しました。離島や山村の児童・生徒にオーケストラの生演奏を届けることを目的とした事業です。この事業は、後に「巡回音楽教室」「巡回芸術劇場」へと発展。現在では毎年2日・4会場を訪問し、各地の小、中、高、特別支援学校の児童・生徒を対象に演奏しています。以来、山響にとって重要な活動の一つとなっています。

楽団創設20年目に当たる昭和49年、それまでの活動が評価され、県から「山口県芸術文化振興奨励賞」並びに「山口県知事選奨」を受賞しました。



【昭和 50 年（1975 年）～昭和 59 年（1984 年）】

山響は、固定した活動拠点を持たず、練習会場不足や楽器不足に悩まされてきました。また、仕事や家庭の事情等により団員は減少し、アンサンブル形式での演奏会になったこともありました。そうした中、「オーケストラの灯を絶やすまい」「みんなのやまきょう」をつくろう」という関係者の情熱に支えられ、昭和 58 年 12 月開催の第 20 回山口県芸術祭・第 28 回山口県交響楽団演奏会では、初めての取組としてプロの指揮者を招聘し、早川正昭氏の指揮で、ベートーヴェンのピアノ協奏曲第 3 番、交響曲第 5 番を演奏しました。

以後、昭和 60 年から現在に至るまで、定期演奏会には毎回プロ指揮者を迎え、音楽の追求と楽団のレベルアップに努めています。

【昭和 60 年（1985 年）～平成 6 年（1994 年）】

楽団創設 30 周年を迎えた昭和 60 年、文部大臣から「地域文化功労者」表彰を受賞しました。30 周年と大臣表彰の記念演奏会では、指揮者に黒岩英臣氏を迎え、また、市内の女声合唱団との共演を行いました。この頃から、演奏会開催地の合唱団、バレエ団、劇団、公募合唱団などとの共演の機会が増えていきました。

第 22 回山口県芸術祭 山口県交響楽団創設 30 周年記念演奏会 （昭和 60 年 11 月 24 日 山口市民会館） 曲目：金子みすゞの世界、フィンランディア、交響曲第 2 番（シベリウス）他 指揮：黒岩英臣、山崎凱千 合唱：花泉会、山口市内ママさんコーラス
第 25 回山口県芸術祭 第 33 回山口県交響楽団演奏会 （昭和 63 年 12 月 25 日 山口市民会館） 曲目：組曲「展覧会の絵」（ムソルグスキー）、交響曲第 9 番第 4 楽章「日本語の第九」（ベートーヴェン） 指揮：飯守泰次郎 モダンバレエ：加藤舞踊学院 合唱：日本語の第九合唱団 ソプラノ：坂井千寿 アルト：有富美子 テノール：久保田誠 バリトン：安東省二
吉田松陰生誕 160 周年・TYS 開局 20 周年記念山響演奏会 （平成 2 年 12 月 16 日 宇部市渡辺翁記念会館） 曲目：組曲「吉田松陰」、ピアノ協奏曲第 3 番、交響曲第 9 番第 4 楽章「日本語の第九」（ベートーヴェン） 指揮：飯守泰次郎、山崎凱千 演劇：宇部芸術座 ピアノ：中高生 3 名 合唱：日本語の第九合唱団 ソプラノ：坂井千寿 アルト：河上敏子 テノール：久保田誠 バリトン：安東省二

昭和 63 年から「日本語で歌う第九」の企画が始まりました。なかにし礼氏による日本語歌詞の“歓喜の歌”をプログラムに取り入れ、開催地で一般公募した合唱団と共演しました。日本語の第九は、山口市、徳山市、宇部市、新南陽市、岩国市、萩市、美祢市と、各地で平成 6 年まで計 7 回演奏しましたが、200～300 人の合唱団との共演は大きな関心呼び、山響の活動の浸透にもつながりました。

また、テレビ山口社長の佐々木英治氏が、公募合唱団を主宰する「山口で日本語の「第九」を歌う会」の会長を務められたことがご縁となり、山響の定期演奏会は毎年 12 月末にテレビ放送されるようになりました。



【平成 7 年（1995 年）～平成 16 年（2004 年）】

平成 7 年の創設 40 周年記念演奏会では、岡田昌大山口大学名誉教授の作曲による交響詩「秋吉台」を同氏の指揮により初演しました。

また、「日本語の第九」のご縁で山響の団長に就任された佐々木英治氏の御尽力により、山響の活動を広く支えることを目的として、県内各界の方々からなる「顧問団」が設けられました。

第 32 回山口県芸術祭 第 40 回山口県交響楽団演奏会 （平成 7 年 12 月 17 日 山口市民会館） 曲目：交響詩「秋吉台」（岡田昌大）、チゴイネルワイゼン、交響曲第 5 番ニ短調（ショスタコビッチ） 指揮：岡田昌大、江上孝則（岩国市出身） ヴァイオリン：石井志都子（山口市出身） 合唱：秋吉台賛歌合唱団

平成6年11月には、山口県教育財団の事業として「オーケストラクリニック」が実施され、県内の学校を訪問し、プロ指揮者による解説付きの合奏を行いました。このクリニックは平成11年まで実施されました。

平成7年10月には、山口市の維新百年記念公園の野外音楽堂「ビッグシェル」(平成6年7月開館)において演奏会を開催。その後、平成20年まで毎年、同会場で「モーニングコンサート」を開催しました。

平成8年12月には、エネルギー文化・スポーツ財団の主催による「エネルギーコンサート」が、開館間もないシンフォニア岩国で開催されました。以後、山響は、萩市(平9)、新南陽市(平10)、宇部市(平11)、山口市(平12)で開催された同コンサートに出演しています。

平成9年からは、文化活動への県民総参加を目的として「やまぐち県民文化祭」が発足しました。山響は、県民文化祭の分野別フェスティバルである定期演奏会を開催するほか、県民文化祭実行委員会主催による特別企画にも出演しています。また、この頃から、山響は、全県・全国規模の大会、市町村や団体の記念事業等への出演の機会が増えてきました。

<p>第4回やまぐち県民文化祭 「第九」演奏会・萩 (平成12年11月19日 萩市民体育館)</p> <p>指揮：河合尚市 管弦楽：山口県交響楽団</p> <p>ソプラノ：五十嵐美紀子 アルト：星野隆子 テノール：松岡重親 バリトン：石原祐介</p>
<p>第21回国民文化祭イベント きらら浜「第九」演奏会 (平成14年10月27日 きらら元気ドーム)</p> <p>指揮：江上孝則 合唱：きらら浜「第九」を歌う会(2,000名)</p> <p>管弦楽：山口県交響楽団、下関市民オーケストラ、宇部市民オーケストラ</p> <p>ソプラノ：吉田恭子 アルト：太田悦世 テノール：塚田裕之 バリトン：藤山仁志</p>
<p>第58回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」 (平成16年5月16日 きらら元気ドーム)</p> <p>曲目：きららの四季・バード交響曲 作曲・指揮：和田薫(下関市出身)</p> <p>二胡：チェン・ミン 合唱：やまぐち自然讃歌合唱団 管弦楽：山口県交響楽団</p>
<p>萩開府400年記念事業「萩・第九演奏会」 (平成16年12月19日 萩市民館)</p> <p>指揮：河合尚市 合唱：萩第九を歌う会 管弦楽：山口県交響楽団</p> <p>ソプラノ：佐々木奈乙美 アルト：三隅真実 テノール：上田達也 バリトン：瀧山久志</p>

【平成17年(2005年)～現在】

平成17年、秋吉台国際芸術村の委託事業として「オーケストラ楽器クリニック」が始まりました。以後毎年、山響団員が講師として学校等を訪問し、管弦打楽器を演奏する児童・生徒の育成活動を行っています。

また、同年、指揮者に円光寺雅彦氏、独奏に防府市出身で世界的ピアニストの原田英代氏を迎え、創設50周年記念演奏会を開催しました。

<p>第9回やまぐち県民文化祭 山口県交響楽団創設50周年記念演奏会</p> <p>歌劇「ルスランとリュドミラ」序曲(グリムカ)</p> <p>ピアノ協奏曲イ短調(グリーグ)</p> <p>交響曲第2番ホ短調(ラフマニノフ)</p>	<p>平成17年(2005年)12月11日</p> <p>山口市民会館</p> <p>指揮：円光寺雅彦</p> <p>ピアノ：原田英代(防府市出身)</p>
---	--



平成 18 年 11 月には、わが国最大の文化の祭典である国民文化祭が「やまぐち発 心ときめく文化維新」をテーマに開催され、総来場者数 145 万人超という大成功を収めました。山響も、準備段階から「山口県アマチュアオーケストラ協議会」や「オーケストラの祭典推進委員会」の中心メンバーとして参画し、企画、運営、演奏全般にわたり全力で取り組みました。

プレ国民文化祭・やまぐち 2006 オーケストラの祭典 喜歌劇「こうもり」序曲（シュトラウス 2 世） 交響詩「フィンランディア」（シベリウス） 交響曲第 9 番「新世界」第 4 楽章（ドヴォルザーク）	平成 17 年(2005 年)12 月 18 日 シンフォニア岩国 指揮：江上孝則 県内の大学・一般のオーケストラによる合同演奏
第 21 回国民文化祭・やまぐち 2006 オーケストラの祭典 （一般のステージ） 交響曲第 4 番ホ短調（ブラームス）	平成 18 年(2006 年)11 月 12 日 シンフォニア岩国 指揮：黒岩英臣 全国の一般のオーケストラによる合同演奏

平成 19 年には、国民文化祭の成果を継承する「山口県総合芸術文化祭」が発足し、山響の演奏会もその一環として開催することになりました。また、平成 18 年の山口フィナンシャルグループの設立を契機に、山口銀行から、山響演奏会のテレビ放送のスポンサーに加え、演奏会への助成やチケット販売など多面的な協力をいただけることとなり、「山口銀行文化助成事業 やまぎんコンサート」の表記が加わりました。近年では、山口銀行の本・支店で山響団員によるロビーコンサートも開催されています。

平成 23 年 6 月 26 日、山陽小野田市文化会館の事業により、東日本大震災復興支援チャリティーコンサートとして山響演奏会が開催されました。この演奏会は、その後「山響サマーコンサート」と名称を改め、同文化会館で毎年 6 月に開催しています。

そして平成 27 年、山響創設 60 周年記念演奏会を開催するに当たり、県民サイドからその成功を応援しようということで、元テレビ山口の小林真人氏が発起人となり、「山響 60 周年を支える会」が設立され、音楽関係者、教育関係者をはじめとする 32 名の皆様に、広報宣伝、チケット販売に御協力をいただきました。

これまでの 60 年間、山響は、県民に広くオーケストラの音楽を提供するために毎年会場を変えて開催する定期演奏会や、次代を担う子どもたちのために県内各地の学校等を訪問して演奏する巡回芸術劇場を中心に、様々な活動に取り組んできました。

固定した拠点を持たず、毎年異なる会場で演奏会を開催するということは、広報・集客活動や関係機関との調整など、運営全般において様々な苦労があります。それら乗り越えてこられたのは、オーケストラ文化という「泉」を守り、育てていこうという創設以来の諸先輩の志と情熱が代々受け継がれるとともに、民間、報道、行政などの各界各層で、山響を支え、応援して下さる人々の輪が広がり、「みんなのやまきょう」として認めていただいたおかげと考えています。

山響は、これからも、県民の皆様の御期待に沿えるよう、より良い演奏の追求と管弦楽の普及に努めてまいります。

歴代団長	初代：石井洋之助 第 2 代：勝谷 晃 第 3 代：佐々木英治 第 4 代：神代 祥男 第 5 代：二井 関成（平 25～）
お世話になった指揮者の皆様	飯守泰次郎 磯部 省吾 入江 英二 江上 孝則 円光寺雅彦 河合 尚市 黒岩 英臣 現田 茂夫 小林 恵子 佐伯 正則 曾我 大介 早川 正昭 広田 智之 福田 隆 （五十音順 敬称略）
年間の主な活動	1～3 月 自主合奏 4～7 月 トレーナーによる合奏、巡回芸術劇場、サマーコンサート（5 月：総会） 9～11 月 指揮者による合奏、巡回芸術劇場、オーケストラ楽器クリニック 12 月 定期演奏会 合奏練習は、月 2 回程度、秋吉台国際芸術村、周南市文化会館、スターピアくだまつ、山陽小野田市文化会館、防府市アスピラート等で行っています。

【第 51 回以降の演奏会プログラム】

<p>第 10 回やまぐち県民文化祭 第 51 回山口県交響楽団演奏会 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」第 1 幕への前奏曲 (ワーグナー) クラリネット協奏曲 K. 622 (モーツァルト) 交響曲第 4 番ホ短調 (ブラームス)</p>	<p>平成 18 年(2006 年)12 月 10 日 周南市文化会館 指揮：黒岩英臣 クラリネット：武田忠善</p>
<p>第 1 回山口県総合芸術文化祭 第 52 回山口県交響楽団演奏会 ヴァイオリン協奏曲第 1 番ニ長調 (パガニーニ) イタリアオペラ・アリア集 (椿姫、トスカ、リゴレット、トゥーラ ンドット) 交響曲第 4 番へ短調 (チャイコフスキー)</p>	<p>平成 19 年(2007 年)12 月 2 日 宇部市渡辺翁記念会館 指揮：現田茂夫 ヴァイオリン：石井啓一郎(防府市出身) テノール：藤田卓也 (長門市出身)</p>
<p>第 2 回山口県総合芸術文化祭 第 53 回山口県交響楽団演奏会 歌劇「運命の力」序曲 (ヴェルディ) チェロ協奏曲短調 (ドヴォルザーク) 交響曲第 2 番ニ長調 (シベリウス)</p>	<p>平成 20 年(2008 年)12 月 14 日 周南市文化会館 指揮：円光寺雅彦 チェロ：山崎伸子</p>
<p>第 3 回山口県総合芸術文化祭 第 54 回山口県交響楽団演奏会 合唱との共演(ファイト!ちよるる さんぼ 君を乗せて ふるさと) 歌劇「タンホイザー」序曲 (ワーグナー) 「パール・ギュント」第 1 組曲 (グリーク) 交響曲第 7 番ニ短調 (ドヴォルザーク)</p>	<p>平成 21 年(2009 年)12 月 13 日 山陽小野田市文化会館 指揮：佐伯正則 合唱：山陽小野田少年少女合唱団</p>
<p>第 4 回山口県総合芸術文化祭 第 55 回山口県交響楽団演奏会 歌劇「ウィンザーの陽気な女房たち」序曲 (ニコライ) 交響曲第 8 番へ長調 (ベートーヴェン) 交響曲第 7 番ハ短調 (プロコフィエフ)</p>	<p>平成 22 年(2010 年)12 月 5 日 山口市民会館 指揮：福田 隆</p>
<p>第 5 回山口県総合芸術文化祭 第 56 回山口県交響楽団演奏会 交響詩「レ・プレリュード」(リスト) オーボエ協奏曲ハ長調 (モーツァルト) 交響曲第 5 番ハ短調「運命」(ベートーヴェン)</p>	<p>平成 23 年(2011 年)12 月 18 日 下関市民会館 指揮：磯部省吾 オーボエ：広田智之 (防府市出身)</p>
<p>第 6 回山口県総合芸術文化祭 第 57 回山口県交響楽団演奏会 序曲「オセロ」(ドヴォルザーク) 小組曲 (ドビュッシー) 交響曲第 5 番ホ短調 (チャイコフスキー)</p>	<p>平成 24 年(2012 年)12 月 8 日 スターピアくだまつ 指揮：佐伯正則</p>
<p>第 7 回山口県総合芸術文化祭 第 58 回山口県交響楽団演奏会 歌劇「ナブッコ」序曲 (ヴェルディ) 「カルメン」組曲第 1 番、第 2 番より (ビゼー) 交響曲第 2 番ニ長調 (ブラームス)</p>	<p>平成 25 年(2013 年)12 月 8 日 防府市公会堂 指揮：磯部省吾</p>
<p>第 8 回山口県総合芸術文化祭 第 59 回山口県交響楽団演奏会 大学祝典序曲 (ブラームス) トランペット協奏曲第 2 番「英雄」(マルセル・ケンツビッチ) 交響曲第 8 番ハ長調「ザ・グレイト」(シューベルト)</p>	<p>平成 26 年(2014 年)12 月 14 日 宇部市渡辺翁記念会館 指揮：広田智之 (防府市出身) トランペット：アンドレ・アンリ</p>
<p>第 9 回山口県総合芸術文化祭 創設 60 周年記念山口県交響楽団演奏会 序曲「1812 年」(チャイコフスキー) フルート協奏曲第 1 番ト長調 (モーツァルト) 交響曲第 1 番ハ短調 (ブラームス)</p>	<p>平成 27 年(2015 年)12 月 6 日 山口市民会館 指揮：曾我大介 フルート：山形由美</p>